



京都大学は、平成21年6月末、平成20事業年度の財務諸表等を文部科学大臣宛に提出しました。この提出に伴い、5冊目となる「財務報告書 Financial Report 2009」をとりまとめました。

京都大学は創立以来、自由の学風のもと闊達な対話を重視し、京都の地において自主独立の精神を涵養し、高等教育と先端的学術研究を推進し、112年が過ぎ、平成16年度の法人化に始まった第1期中期目標期間の最終年度を迎えました。

私は、平成20年10月に第25代総長に就任し、「伝統を基礎とし、革新と創造の『魅力・活力・実力』ある京都大学を目指す」ことを掲げました。これは、学術の府として京都大学の存在を国内外に示し、同時に京都という誇りと文化に満ちた環境の中で、教養人、国際人、世界的研究者を輩出し続けることを、不断の努力により実現することを示すものであります。

平成20年度には、益川敏英 本学名誉教授が、小林誠 高エネルギー加速器研究機構名誉教授とともに、京都大学理学部助手時代に共同発表されました「小林・益川理論」に対して、ノーベル物理学賞を受賞されました。これは、京都大学が基礎研究を大事にしてきた証であり、研究者への道を目指すものにとって大変勇気づけられた出来事でした。

京都大学では、こうした研究者になりたいという思いに応えるべく、若手研究者を支援するため、「白眉」と呼ぶ優秀な若手研究者を採用し、次世代研究者として育成する「白眉プロジェクト」を準備する等、従来にも増して教育や研究をめぐる環境を整える予定です。

この「財務報告書 Financial Report 2009」は、京都大学が取り組んでいるこれらの事業を財務の面を通して、より一層ご理解いただけるように、わかりやすく情報を発信することを目的としております。そのため、今年度からは、損益計算書だけでは明らかとされない教育研究用の京都大学の資産の取得目的等についても明示し、総合的な観点から本学における教育、研究、社会貢献の現状を、よりわかりやすくしております。

京都大学を支えてくださる皆様からの、さらなるご指導とご支援をお待ちいたしております。

京都大学総長 **松本 紘**